

ルーム・トゥ・リードの女子教育プログラムをご支援いただきありがとうございます。

皆様のご協力によって、2018 年には 4 万人を超える少女たちに新たに支援を行い、累計での支援数は 9 万 5 千人以上に拡大しました。少女たちが自分の権利を擁護し、自分たちの声を持つ力を見出し、自分自身のために道を選ぶ道を作る後押しをして下さったことに、深く感謝申し上げます。



私達のプログラムは、少女達が中等学校を卒業し、重要な人生の局面に必要なスキルをしっかりと身につけられるようにするものです。皆様のご寄付は、新たな地域へ、そしてより多くの少女へこのプログラムを広げるために不可欠なものです。

女子教育プログラムに参加した 6,200 人以上の少女達が、中等学校を卒業しました。この数字には、2018 年卒の少女 1,300 人も含まれます。プログラム参加者の進学率は 95% で、また 70% 以上が高等教育機関に進学したか、卒業後に就職しています。

女子教育プログラムは、現在バングラデシュ、カンボジア、インド、ラオス、ネパール、スリランカ、タンザニア、そしてベトナムの 8 ヶ国で実施されています。

これらの国々で、コミュニティにおけるジェンダーパラダイムを変え、女子教育のサポートを強化しようという私達の活動をご支援いただき、ありがとうございます。皆様のご支援は、これから何世代にも亘って女子教育を推進する力となります。

2018 年の実績

恩恵を受けた少女の数

2018 年新規	2018 年合計
4 万人以上	7 万人以上
累計	
9 万 5 千人以上	

中等学校卒業生

2018 年新規	累計
1,300 人以上	6,200 人以上

女子教育プログラムの急速な成長

2017年には、女子教育プログラムを通じて5万人以上の少女に手を差し伸べることができました。2018年には、インドで大規模な女子教育プログラムプロジェクトが始まり、初年度には3万人以上の少女にプログラムを届けました。これによりプログラムの成長率は大きく上昇しました。昨年実施した他のグローバルなプログラムも加えると、世界中でプログラムに参加した少女は合計で10万人弱まで拡大しました。わずか2年で累計がほぼ倍増したのです。このプログラムの詳細について、以下に詳しくお伝えします。

国別ハイライト:インドで女子教育の拡大を促進

IKEA 財団と協力して、2018年にインドで3ヵ年プロジェクトを立ち上げました。このプロジェクトでは今後数年間で、ライフスキルに基づく支援活動を通じて、6万8千人以上の中等学校に通う少女達の自信と力を育みます。この支援活動は、中等学校でクリティカルに物事を考え、自分の力で日々の課題に対応していく能力を養いながら、少女達の教育と人生における成果を向上させることを目指しています。このプロジェクトの対象は、貧しく、社会から取り残され、女子の教育は優先されないコミュニティ出身の少女達です。

この大規模なプロジェクトは段階的なアプローチをとり、各州の思春期の少女達全員に支援が行き渡るよう、州政府による支援活動の採用、再現・拡大を可能にしていきます。初年度は参加者目標を上回り、3万人以上の少女が参加しました。



ライフスキル評価が、プログラムに対する革新的な評価測定を提供

ライフスキルが重要であることは自明ですが、少女の人生に与える影響を評価するのは難しいことです。この問題に対処するために、2016年にカンボジア、インドおよびタンザニアで、革新的なライフスキル評価(LSA)を試験的に実施しました。このツールは、10の主要スキルに対する少女達の能力を測定し、私達のライフスキル・カリキュラムを進めるに従い、少女達の知識、態度そして活動が変化した様子を捉えようとするものです。またこのツールは、私達のプログラムに与える偶然的影響を判断するのに役立つと共に、卒業生の追跡調査から得た卒業や人生の成果といった他の成果データとリンクさせることもできます。

2018年には、私達が女子教育プログラムを実施している8ヶ国すべてにLSAを拡大しました。このツールでは、前期中等学校の入学時と卒業時に少女達の評価を行います。2020年には8ヶ国すべての評価結果をご報告できると思います。多くの組織が若者の社会的および情緒的なスキルを厳密に測定する方法を模索していることから、LSAは、国際的な教育セクターに多大な影響を及ぼす可能性を秘めています。LSAを通じて、低所得コミュニティに、効果的な女子教育の機会を大規模にもたらす能力を証明することで、この分野を形づくることができると考えます。

タニア

ダッカ、バングラデシュ

タニアは、バングラデシュのダッカにあるナルバタ高等学校の9年生です。2015年に女子教育プログラムに参加して以来、タニアは生徒として、そしてリーダーとして変貌しました。プログラムに参加する前のタニアはとても恥ずかしがり屋で、無口な少女でした。はっきりと意見を言ったり、クラス活動に参加したりする自信がありませんでした。しかし今では、目標を持って自分の意見をはっきり言えるようになりました。タニアは学校だけでなく、家族や友人に対してもより積極的になりました。

タニアの中で最も成長したのが、リーダーシップのスキルです。プログラムを通じて、落ち着いて「ノー」と言うにはどうしたらいいのか、自分そして友人にとっての善悪の判断をどのようにするのかを、タニアは学びました。現在は、学校のイベントで教師からリーダー役を果たすよう求められることも多く、その役割を熱心に果たしています。



バングラデシュ

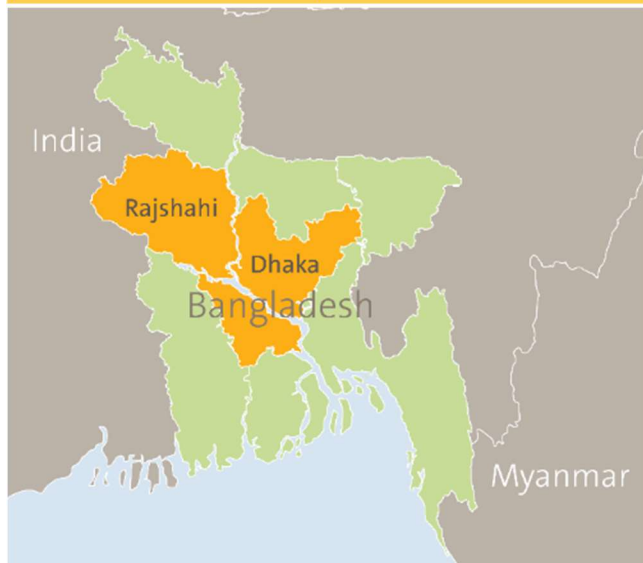
2009 年開始

800 名

2018 年に新たに
参加した少女

3,860 名

2018 年に参加した
少女の総数



タニアの中で育ちつつあるリーダーシップのスキルは支援活動にまで広がり、現在彼女は自分のコミュニティに変化をもたらすために熱心に活動しています。タニアは、児童婚の防止など様々な啓発活動に参加しています。一例として、タニアは、自分のコミュニティの友人、教師、そしてメンターを動かして、友人が児童婚を回避する手伝いをしました。この事は、タニアが所属するライフスキル・クラブにおいて、少女が児童婚で自分の人生を放棄することがない社会を構築するというコミットメントを文書化するきっかけとなりました。

タニアの活動には、友人同士が支援し合って、試験で好成績をあげることを目指して立ち上げた、学習クラブも含まれます。この活動により、タニア自身も最近のテストでは最高の成績をあげました。

タニアの学校の校長はこの素晴らしい進歩に気づき、以下のようにコメントしています。「変化は一晩では達成できません。多くの努力を必要とします。ルーム・トゥ・リードのスタッフによる懸命な活動と確固たる努力、そして女子教育プログラムに対する深い情熱と献身に大いに感謝します。皆の協力により、タニアをはじめとした多くの少女の成績が向上しています。またルーム・トゥ・リードの支援により、女子の退学率も低下しています。私の生徒全員が、ルーム・トゥ・リードの活動に

触れる機会をもてるように願っています」

タニアは、ジャーナリストになるという自分の夢をいつか実現したいと考えています。女子教育プログラムで学んだレッスンやスキルは、自分の生涯にわたって影響を及ぼすものだと言っています。

スレイリーク

コンポンチャム、カンボジア

スレイリークは、カンボジアのコンポンチャムにあるフン・セン・カチャオ高校に通う15歳の学生です。スレイリークはオーポペル村に、両親と兄と一緒に住んでいます。彼女の兄は建設作業員として働いています。そして両親は、米作りと数頭の牛を飼育して生計を立てています。副収入を得るために、スレイリークの父親と兄はしばしば建設作業員として、プノンペンに出稼ぎに出ています。

家族みんなが働いていますが、スレイリークの家族全員の暮らしにとって十分な所得を得るのに苦労しています。そのためスレイリークは、ピン・ペアトと呼ばれるクメール音楽の合奏を覚え、小さなイベントで演奏をしています。ピン・ペアトの合奏は、この地域の宮殿や寺院の祝賀音楽として広く演奏されています。スレイリークが稼いだお金はすべて教育のために使われていましたが、演奏のために学校を休まなくてはならない時もあり、学習の妨げとなりつつありました。そして他の生徒に後れを取り始め、彼女は学校を退学することを考えるようになりました。

そのような状況ではじまった女子教育プログラムのおかげで、スレイリークの考えは変化しはじめ、定期的に学校に出席するようになりました。スレイリークは依然として学校の外で忙しく働いていますが、同級生から本を借りて、欠席した授業に追いつくために、家で勉強する方法を学びました。

カンボジア

2003 年開始

1,340 名

2018 年に新たに
参加した少女

8,610 名

2018 年に参加した
少女の総数



女子教育プログラムに参加したことで、スレイリークは現在学校で大きな進歩を見せています。目標を定め、多面的に深く考え、教育の重要性を理解しつつあります。また自分の勉強や将来のキャリアについて、両親に自信を持って話せるようになりました。家族に対して交渉のスキルを使って、より多くの時間を演奏ではなく学習に回しています。また時間管理もより効率的にしています。

こういった努力すべてによりスレイリークの学習成績は大きく改善し、現在はクラスで6位となっています。スレイリークは困難や問題を乗り越えて、学校で良い成績を維持する計画を立てています。彼女は自信を持って、「私は一生懸命勉強して、来年はクラスで3位になります」と言っています。

スレイリークの夢は、自分が住む地域の教師になることです。彼女は女子教育プログラムをとても気に入っており、彼女のメンター、ルーム・トゥ・リード、教師、そして自分の両親に感謝しています。彼女が学校で良い成績を収め、目標を達成することを皆が応援してくれています。

マデュ

ラージャスターン、インド

インドのラージャスターン州の僻村で育ったマデュは、中等学校を卒業できるとは思っていませんでした。小学校卒業直後に、マデュの両親は彼女に結婚するよう迫りました。この事件が起った時、マデュは、最近いところを学校を退学して結婚させられたことを見ていたので、自分の将来の可能性があつという間に狭められたことを知りました。マデュはさらに勉強を続けたいと懇願しましたが、兄を含め家族の誰もが中等学校の卒業を認めてくれませんでした。

その後マデュは、2007年にルーム・トゥ・リードの女子教育プログラムに参加する機会を得ました。ライフスキル教育と並行して行われたメンターシップで、彼女は、意志決定、目標の設定、時間の管理、そして効率的なコミュニケーションなど非常に貴重なスキルを得ました。こういった新しいツールにより、人生に対する新たなアプローチが生まれました。わずか数ヶ月後、マデュの学業成績は飛躍的に向上しました。

しかし、依然として結婚を強制される不安が彼女の夢を縛っていました。毎週毎週、マデュは退学を迫られる日を恐れながら学校に通い、そのときが来たら困難に立ち向かえるかどうかを自問していました。



インド

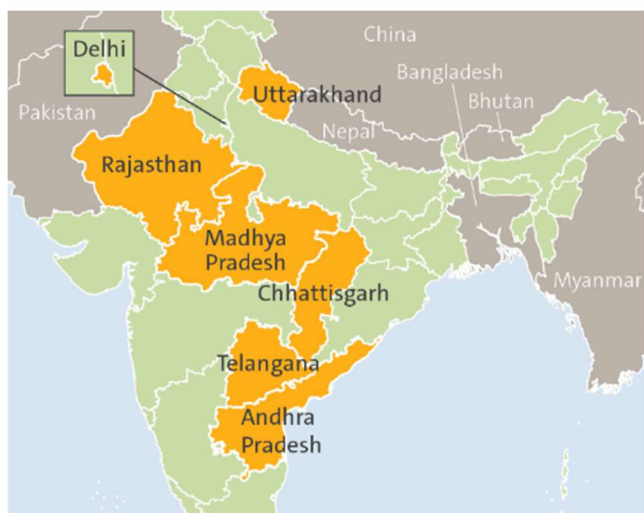
2004 年開始

34,030 名

2018 年に新たに
参加した少女

42,260 名

2018 年に参加した
少女の総数



ある朝、父親がマデュに近づいて言いました。「女の子はいつか家庭に入るのだから、高等教育は必要ない」

幸いなことに、ルーム・トゥ・リードのスタッフとマデュのソーシャル・モビライザーが自宅を訪問して、彼女に学校を続けさせるよう家族を説得しました。3名の学校の教師も加わって、ようやくマデュの家族は承諾しました。

「私の成功への道は私の努力だけで達成されたわけではありません」とマデュは言います。「女子教育プログラムからの支援が、10年生の最終試験に合格する道筋をつけてくれたのです」

それから10年が経ち、マデュは家族の中で、大学を卒業し学士号を取得した最初の女性となり、さらに修士号取得のために勉学に励んでいます。自分の意志によって結婚をして、現在、ルーム・トゥ・リードのソーシャル・モビライザーとして、3つの学校の50人の少女のメンターとして活動しています。

奉仕の機会に恵まれたマデュは、若い女性たちが自分のようにそれぞれの道を切り開いていく支援をしています。

ピミャ

ウドムサイ、ラオス

ピミャは、ラオスのウドムサイ県で、8人兄弟の貧しい家庭で育ちました。少数民族であるピミャはその地方の方言を話し、成長してからラオ語を学んだため、学校ではかなり言語の壁ができていました。ピミャはラオ語でコミュニケーションをとることが難しいと感じており、授業中や休み時間はひとりぼっちになることがしばしばでした。ラオスでは220の方言が話されており、言語の壁は地方の子ども達にとって、共通の重要な問題となっています。ピミャは自分の会話スキルや貧困を恥ずかしく感じて自信を失い、意欲にも欠けていました。

しかし、ルーム・トゥ・リードの女子教育プログラムがピミャの学校で始めると、ピミャの前途は変わりました。「女子教育プログラムに参加する前は、ラオ語がうまく話せないことや、よくお古の制服を着ていたのも、引っ込み思案でした」とピミャは話します。「私がラオ語を話すとよく友達に笑われて、『この子のはっきり話せないのよ』と言われていました。すごく恥ずかしくて、おどおどしてしていました」

ピミャはプログラムから、学習用品、制服、通学用の自転車の提供といった物質的なサポートを受けるだけでなく、ソーシャル・モビライザーともつながりを持って、新たなスキルを教わりました。ピミャは、女子教育プログラムの一環として行わ

れた「自分の権利」の授業から大きな恩恵を受けました。この授業の目的は、少女達に人権を教え、普遍的な人権は誰にでもあるということを思い起こさせます。若くても年を取っていても、裕福でも貧しくても、男でも女でも、それは関係ありません。この授業でピミャは初めて、自分が他の人と同じように権利を持っていると言われたのです。ピミャは、誰もが安全であり、基本的なニーズを満たす権利を持っていることを徐々に悟りました。

「ライフスキルのトレーニングが私の人生を変えました」とピミャは言います。「このプログラムに参加して、私は徐々に自信を持てるようになり、またよく勉強して、友達ともうまくやっていたようになりました。たとえ少数民族の出身でも、私も他の子ども達と同じように権利があることがわかりました。たとえクラスメートに笑われても、先生の質問に答えることを始めました。今は、自信があります。友達と同じように、自分にも権利があることを知っています」

クラスのリーダーに成長したピミャは、すぐに最終試験すべてで「A」を取り、9年生から12年生までの間、物理学で優秀生に選ばれました。現在、ピミャは8人の兄弟の中で唯一中等学校を終え、ラオス国立大学のカレッジに進んでいます。ピミャは現在大学の1年生で、ソーシャルワークを学んでいます。

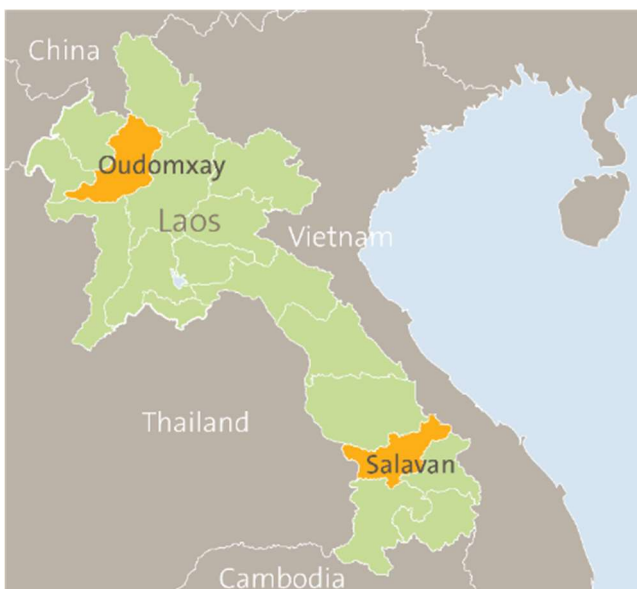


ラオス

2007 年開始

890 名

2018 年に参加した少女の総数



女子教育プログラムと、メンターの指導とライフスキルを持つ力を知ったおかげで、ピミャはより多くのラオスの子ども達が自分のように成長することをサポートする仕事に就きたいと考えています。

カシシュ

第五州、ネパール

カシシュは15歳で、ネパールの第五州にあるシュリー・スヨダヤ中等学校の10年生です。彼女は貧しいコミュニティで育ち、教育がないとどのような結果になるのかをよくわかっています。学校に行く機会に恵まなかったカシシュの父親は食堂で働き、家族をやっと養っていける程度の収入しか得ていません。

幸いなことに父親はカシシュの勉強を支援し、その少ない収入を節約して、彼女を学校に通わせてくれています。父親は、学校に行かなければ、男の子でも女の子でも人生が厳しいものとなることを理解しており、カシシュにはそうなって欲しくないと思っています。

女子教育プログラムに参加すると、カシシュはすぐに、通常の学科を超えた貴重なスキルを学び始めました。ライフスキルの授業では、貯蓄の重要性、将来設計、人権などを学びました。カシシュは授業で学んだことを家族にも教え、さらには父親の金銭管理の手伝いを始めました。

カシシュの父親は、彼女が計算を手伝ってくれるのをとても喜んでいます。「カシシュはとても賢く、素早く計算ができます。私の口座の管理を手伝ってくれています」と父親は語ります。

こういったスキルや他の知識によって、カシシュは警察で働くという夢を持つようになりました。ネパールではこの職に就く女性はほとんどいませんが、カシシュは今、その夢を追いかけるための支援と応援をもらっていると感じています。

「父が私に必要なものを与えるのに苦労しているのを見てきましたが、父は一度も不平を言ったことはありません。常に私を勇気づけてくれます。私が警察官になりたいと話したときでさえも、賛成してくれました。女の子は普通こういった分野の職は選ばないので、父は怒るのではないかと考えていましたが、賛成してくれました」とカシシュは話しています。

女子教育プログラムで、カシシュはライフスキルを学ぶと共に、女の子も男の子と同じ機会を得ることが可能であり、また目標を追いかける価値があることを教えました。ルーム・トゥ・リード、家族、とりわけ父親のおかげで、カシシュは学習を継続し、成長することを後押ししてもらっていると感じています。



ネパール

2000 年開始

1,110 名

2018 年に新たに
参加した少女

4,470 名

2018 年に参加した
少女の総数



タルシ

北中部州、スリランカ

貧困家庭の4人家族に生まれたタルシは、スリランカ北中部州にあるワリカンダという小さな村に住む11歳の少女です。ワリカンダは主に農業を営む村で、1990年代にシンハラ族がこの地に移住して作った村であることから、「流浪の民」の土地として知られています。

それ以来、ワリカンダの住人は、飲料水の不足、慢性腎臓疾患の蔓延、貧しいインフラそして貧困といった数多くの困難に直面してきました。タルシの家族は、2009年に30年続いた内戦が終結したことで恩恵を受けましたが、生活の質は依然として厳しいものです。

残念なことに、タルシの母親も腎臓疾患を患っています。こういった理由から、タルシは、家事の多くを担当すると同時に、2人の兄弟の面倒も見ています。そのため彼女には学校に行ったり、勉強に集中したりする時間がほとんど取れませんでした。タルシは氣力を失い、学校に対して前向きな気持ちを持てず、中退する可能性がありました。

女子教育プログラムに参加すると、タルシの態度は徐々に変わっていききました。タルシの学校でプログラムが始まったのは



は2018年1月からですが、彼女の人生を大きく変えました。この1年間で、タルシは見違えるように変わり、今ではとても生き生きとしています。ソーシャル・モビライザーは、タルシが前向きな気持ちを保ち、新しい思考方法を見つけ出す手助けをしました。またタルシが学校と家庭での仕事のバランスをとって、これ以上授業を受けられないことがないように支援しました。

「ソーシャル・モビライザーのおかげで、気持ちが前向きになりました。彼女は、思いやりと楽しさがある場所という、学校の違う側面を見せてくれました」とタルシは言います。

タルシの母親も、変化に気づいています。「この数ヶ月に、タルシの中に少し変化がでてきたと感じています。それはルーム・トゥ・リードのおかげです」と母親は語っています。

女子教育プログラムのサポートのおかげで、タルシの行く手には障害が立ちちはだかっているにもかかわらず、やる気を増して、また多くの責任に熱心に取り組むようになりました。

タルシは、自分が学校、家庭、そして人生においてメリットをもたらすような意思決定やスキルの構築できるようになるため、プログラムを継続していきたいと考えています。

スリランカ

2006 年開始

1,120 名

2018 年に新たに
参加した少女

4,910 名

2018 年に参加した
少女の総数



グレース

プワニ、タンザニア

タンザニアのプワニ州に住む 23 歳のグレースは、人生における多くの困難を乗り越えてきました。彼女の両親は結婚をしておらず、彼女を置いて新しい家庭を築くために引っ越したため、グレースは 1 人残されて祖母と親戚に育てられました。

父親は常にいたわけではありませんが、それでも最初はグレースの小学校の費用を援助していました。しかしこの援助も、グレースが中等学校に進学したときに止まりました。父親はグレースともう 1 つの家庭の両方を支援する余裕がなかったからでした。この援助の放棄はグレースに深く影響し、また自分自身では学費を払うことができないため、彼女は退学を考えました。

ルーム・トゥ・リードの女子教育プログラムの支援活動は、まさにこのタイミングで始まりました。グレースは、ディオンゴヨ中等学校でのプログラムに参加し、ソーシャル・モビライザーの支援を受けました。ソーシャル・モビライザーは彼女に、自分が抱える難しい状況に対処する方法を教えました。またこのプログラムでグレースは、定期的なメンタリングとライフスキルの授業を受けました。



タンザニア

2012 年開始

490 名

2018 年に新たに

参加した少女

2,250 名

2018 年に参加した

少女の総数



グレースは依然として、常に学校に通うのに苦労していました。学費の支払いや本の購入など、基本的なニーズを満たすことができませんでした。また、家に帰って、学費が払えるまで学校に戻ってくるなどと言われることもしばしばありました。グレースは頻繁に欠席するようになり、成績は大きく落ち込みました。まさに、学校から追い出されようとしていたのです。

ソーシャル・モビライザーが再び支援に入り、グレースは女子教育プログラムから物質的な支援を受けられるようになりました。そして、学費を払い、本、ペン、制服といった学校で必要なものを揃えました。グレースは現在、授業を欠席することがありません。また、成績はすぐに改善し始めました。彼女の家での生活は依然として困難がありますが、この支援が問題を乗り越える力を与えています。

残念なことにグレースは、最終試験の 1 週間前に父親が亡くなり、新たな問題に直面することになりました。彼女は落ち込み、家でも学校でもひとりぼっちだと感じました。ソーシャル・モビライザーは素早く動き、グレースに情緒面でのサポートと、自分の悲しみに取り組むツールを提供しました。そして、グレースが自分の目標に再び集中できるようにするためのセッションを追加して、彼女と個別面談も行いました。

このソーシャル・モビライザーの全面的な支援により、グレースは自分を取り戻し、最終試験に合格することができました。高校への推薦を得て、自分自身のためにより良い未来を作りだすよう励ましを受けています。

グレースは、ルーム・トゥ・リードが自分をサポートしてくれたように、困難な時期に少女を支援できる立派な起業家になりたいと熱望しています。

エン

ロンアン省、ベトナム

中等学校の生徒であるエンとその家族は、ベトナムのロンアン省に住んでいます。エンの父親は工場で働き、母親は借家の中で小さな雑貨店を営んでいます。エンは家事の多くを母親と分担していますが、自分の勉強の時間を作っています。エンは学校に行くのをとても楽しんでおり、女子教育プログラムの授業に参加することで、彼女の教育への関与と熱意が高まっています。

エンは特に、ライフスキルを熱心に学んでいます。いくつかのスキルはすぐに応用が可能で、またその他のスキルも自分の人生にとって将来役立つことを理解しつつあります。他の人とコミュニケーションを取ることから、自分自身を守りまた他の人を助けることまで、エンはどの授業も有益であると感じています。

最近では、時間とお金の管理方法を学んでいます。「お金の節約方法」の授業を基に、エンは自分の予算表を作り、自分の費用を抑え貯金を始めるために、不必要とわかったものを手放す努力をしています。

新しく学んだ金銭管理のスキルは、既に役立っています。エンの母親は1週間分の朝食代をくれますが、そこから毎日少しずつ貯金をしています。この貯金のおかげで、エンは祖父の葬式に出席するために、両親とクアンチ省まで旅行することができました。貯金がなければ、エンの両親は彼女のために往復のチケット代を負担することができなかったでしょう。

エンは自分の貯金を、文房具や本、新しい制服といった、学用品の購入にも使いました。女子教育プログラムの授業をきっかけとしたこういった新たな機会は、学業においても私生活においても、エンのやる気を高めています。

熱心に学校や女子教育プログラムに通った努力が報われて、エンは、学校で「優等生」賞を継続して受賞しています。ルーム・トゥ・リードのライフスキルの授業とメンタリングで、エンは自分の将来の準備を進める気持ちになっています。



ベトナム

2002 年開始

460 名

2018 年に新たに
参加した少女

2,740 名

2018 年に参加した
少女の総数

